

2011年 月 日

名古屋市会議長
中村孝太郎様

請願者

紹介議員

敬老パスの現行制度を守り充実を求める請願書

名古屋市は、10月21日から23日にかけて事業仕分けを行いました。そのなかで敬老パスについては、「見直し」と判定されました。議論では、「高齢者の生きがいである」「実施しながら効果を見守りたい」と「継続」の意見もありましたが、負担の引き上げ、年齢の引き上げなどを中心に「見直し」とされました。

しかし、今回の事業仕分けは、市側提案、議論、判定までがわずか1時間という限られたなかで行われました。本来は、利用者を含め市民の幅広い声をふまえて、敬老パスの趣旨や高齢者の生きがい、波及効果などをもっと論議しなければ施策の判断はできないと考えます。

私たちは、敬老パスが65歳以上の名古屋市民にとって、健康、生きがいに大きな効果があることから、現行制度を守り充実することが大切であると考えています。

一方、市財政の危機と言われますが、その内容は、不要不急の事業、大型公共事業推進の結果であり、その反省こそ必要です。ところが、名古屋市は、中京都構想の名のもとに、リニア新幹線開通に伴い名古屋駅前の再開発など大型公共事業、不要不急の事業を進めています。ここにメスを入れれば、子どもから高齢者までの施策を充実させることができると考えます。

そこで、下記の項目について請願します。

記

1. 敬老パスは、現行の制度を守り充実させること。

以上

氏 名	住 所

【取扱い団体】